

事例 このように連携をすることができます。

< SCによる支援の例 > 発達障害の特性のある子供

本人の特性

小学校入学当初から、すぐにイライラして対人関係のトラブルが絶えなかった。2年生時の担任に、発達相談支援センターを紹介され、発達障害と診断された。4年生時には、興奮すると二次的的症状が出るようになり、服薬が始まった。

学校生活

中学校の入学式が始まる直前にパニックを起こし、母親と保健室で休んでいた。そのことで周りから「変な奴」と思われまいかと気に始めた。その後、特に問題なく生活していたが、5月の連休明け、部活動で先輩が発した言葉が気になり、顧問に「先輩からいじめられている」と訴えた。顧問は、双方から事情を聞くが、事実は確定しなかった。

SCによる支援

【教師へ】本人の受け止め方の特徴と対応について助言し、顧問・学年スタッフと共通理解を図った。

【本人へ】カウンセリングを提案し、面談では場面を設定し、自分の行動を振り返らせることをメインとした。

↓ その結果

教師も SC から対応技術を学び、本人も感情をコントロールする力が少しずつ身に付き、対人関係のトラブルが減った。

過去のトラブルを把握する！

発達障害の診断を受けている子供について、できるだけ早い時期に、SCと教師（特に、特別支援教育コーディネーター）とで共通理解することは、非常に効果的です。特に、これまでの対人関係に関するトラブル内容（きっかけや、その際の指導など）を把握しておくことは、本人を理解する上で重要です。

コミュニケーションに課題を持つ子供は、ときには「いじめられた」という表現で、自分の苦しさを訴えることも珍しくありません。そうした際には、じっくり話を聴き「いつでも先生に訴えてよい」と安心感を与えることが大切です。また、得られた情報を学年で共有することはもちろんですが、部活動や委員会などで関わる全ての教師に伝えておくことで、小さな変化への気付きに繋がっていきます。

< SSWによる支援の例 > 養育能力不足の家庭

家庭環境

本人（小4）、父親（会社員）、母親（精神疾患）。

母親の養育能力不足のため、食事に偏りが見られ、家庭の中は不衛生な状況である。

本人の特性

通常の学級在籍（学力不振、知的な遅れ、発達障害の疑い、精神発達の未熟さ）。体臭がきつい。

学校生活

欠席日数：小1（約50日）小2からほぼ全欠。

学校は家庭訪問を実施するが、本人・保護者と接触することが難しい。

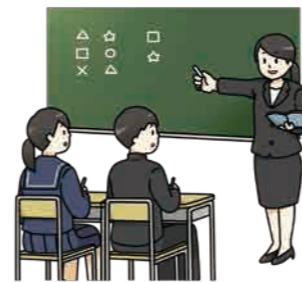
SSWによる支援

- 学校とともにSSWが家庭訪問を行い、母親との信頼関係を構築していった。
- 母親を医療機関、本児を発達相談支援センターに繋いだ。

↓ その結果

【適切な就学支援】本児への適切な支援を行うため、特別支援教育課と発達相談支援センターとで連携し、特別支援学級への入級を勧めた。

【保護者への支援】母親の精神状況が大きく左右するため、母親の通院先とコンタクトを図りながら、障害者手帳取得や障害福祉サービスの利用を提案した。



SC

スクールカウンセラー

SSW

スクールソーシャルワーカー

との「**効果的な連携**」が
問題の早期対応と解決に繋がります。



近年、子供を取り巻く問題は、ますます複雑化し多岐に渡っています。問題の要因が家庭環境や発達の課題などに関係し、担任や学校だけではその把握や対応等、解決が難しいケースも増えてきています。また、いじめも様々なケースがあり、担任や養護教諭等の教師に相談しづらい内容も増えてきています。

このような中、子供の不安や悩み、いじめや不登校の問題が発生した場合には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと情報共有を図りながら、効果的に連携し、早期に対応を進めることが必要不可欠となってきています。

子供たちのために、「心の専門家」(SC)や「福祉の専門家」(SSW)とチームを組み、積極的に連携していきましょう。

平成29年3月
仙台市教育委員会

スクールカウンセラー(S C)

1 心の専門家

効果的な連携

- 機会を捉え、スクールカウンセラー(以下S C)の存在を子供や保護者に広報し、相談しやすい体制を整えます。
- S Cに気になる子供や学級の様子を見てもらい、今後の対応について協議します。
- S Cに見立てを依頼した子供の情報(変化)を定期的に伝え、対応方針の確認を行います。
- 必要に応じて、職員会議やケース会議などにも参加してもらい、対応方法や関係機関との連携などについて、専門的な視点からアドバイスをもらいます。
- 現職教育や保護者会等で、S Cを講師として「心身の発達に関する理解」や「子育て・思春期講座」などの研修を行うことができます。
- 小中連携のための情報交換に、S Cも参加することで、より丁寧な引継ぎができます。

教育相談の主体は教員です。S Cはそのための支援を行います。

S Cとの協議を重ねることは、教師の「教育相談のスキルアップ」を図ることにもなります。

さらに、S Cとともに教育相談を行うことで、学校組織全体のチーム力の底上げにも繋がります。

普段どれくらいスクールカウンセラーと話をしていますか？
専門的な助言をもらっていますか？

<教師とS Cと一緒に考えることで……>

次のような例があります。

例1) 別室登校からの教室復帰に向けて

教室復帰に向けた計画と、手立てのタイミングをS Cと協議します。教師や保護者は、「早くみんなと教室に」と焦りがちですが、S Cの見立てのもと、子供の不安な気持ちに寄り添い、子供のペースを大切に自己決定を促します。

例2) 発達障害の特性を持つ子供への対応

子供の見立てと対応について助言をもらい、指導・実践します。上手くいったことやそうでなかったことを、次のS Cの勤務日に伝え、さらに助言をもらいます。

例3) いじめや対人トラブルの予防

学級や学年の実態に合わせ、人間関係づくりを目的とした心理教育を、S Cの助言をもとにしながら、計画的に実施することができます。いじめアンケート調査結果の分析を依頼することもできます。

<子供や保護者がS Cと繋がることで……>

- 相談者が、自分自身の心に寄り添ってもらうことで、心の安定が図りやすくなります。
- 教師には相談しにくいことも、S Cには話すことができたり、解決方法を一緒に考えたりすることができます。

是非こちらも参考に



「スクールカウンセラーの効果的活用」について、仙台市教育センターホームページ <http://www.sendai-c.ed.jp/~soudanka/index.html> 「心のケア」からダウンロードができます。

2 緊急時の対応等

平成28年度から、教育相談課に2名のS Cが常駐しています。

学校や児童生徒にかかわる重大な事件や事故、非常災害などが発生した場合、学校からの要請に基づいて、教育相談課のS Cを派遣し、心のケア緊急支援等を実施します。

例えば、交通事故やプールでの事故、不審者による事故、児童生徒や保護者の急死など、大きな心的ストレスを伴うケースへの対応について助言します。受けた衝撃を緩和し、日常を取り戻すために必要な環境整備をプランニングするなど、児童生徒、保護者、教職員の動揺や精神的な影響を最小限に抑えます。

また、教育相談課の教育相談室には、常駐の相談員の他に、非常勤嘱託職員の「臨床心理士」と「精神科医」が勤務しており、不登校や発達障害をはじめ、保護者の養育に関する相談など、様々なケースに対応しています。

(直通電話 022-214-0002)

スクールソーシャルワーカー(S S W)

1 福祉の専門家

スクールソーシャルワーカー(以下S S W)は、福祉の専門家(社会福祉士、精神保健福祉士)として、子供や家庭が抱える諸問題に対して、子供と子供を取り巻く環境に焦点を当て、その環境改善に向けた支援を行い、子供が健全に学校生活を送ることができるようにしていきます。

子供や保護者が抱える問題

- 不登校 ●貧困 ●病気
- 発達障害 ●いじめ ●虐待
- 暴力行為等の問題行動 など

具体的には……

- 子供の状況を目視確認することができない。
- 保護者と連絡がなかなか取れない。
- 保護者が精神疾患を抱えている。
- 家庭が子供にとって不適切な養育環境にある。
- 校納金等が納入されない。 など



効果的な連携

- S S Wが学校を訪問し、学校と情報共有をします。
- 学校と相談しながら、問題の見立てを行い、支援プランを決定します。また、教職員にアドバイスを行います。
- S S Wが、問題の解決に向け、関係機関との調整を行います。
- ケース会議を開き、必要な関係機関が連携し、子供や家庭への支援について役割分担を行います。
- 必要に応じて、S S Wが、子供や保護者との面談や家庭訪問を行うこともあります。

手続き

- 現在、教育相談課に5名のS S Wを配置しています。
- 子供や家庭が抱える諸問題について、心配なこと等があれば、学校からの相談に応じます。教育相談課教育相談班(022-214-0004)に連絡ください。

2 関係機関との連携



S S Wは、学校と関係機関とのネットワーク構築も行います。

校長先生
教頭先生へ

いじめ・不登校対策には「チーム学校」で!

いじめや不登校の対策においては、心理や福祉などの専門家であるS C・S S Wを積極的に活用することにより、「チーム学校」としての対応が、組織的かつ迅速に進み大変効果的です。学校としての組織的な対応をお願いいたします。